

第6期雄武町総合計画「将来像」提案シート まとめ

No.	将 来 像	込められた思い・考え	10年後の雄武町をどのような町にしたいか
1	風に立て ぐらしと産業が融合するまち おうむ	「風に立て」は雄武町特有の日方を示し、その風に立ち向かう力強い町民を意味し、「ぐらし」は雄武町に住み、ぐらし、働くすべての時間を意味し、「産業」は豊かな自然の産業振興を意味し、魅力あるまち作りを目指す。	こどもの声が飛び交い、豊かな自然環境を維持し、地域住民が元気にいつまでも働くことができるおうむ町にしたい。
2	災害に強いまちづくり おうむ	過去に2回の大火を経験し、近年の予測できない災害にも立ち向かう「いきいき」とした力強いおうむ町民を意味している。	
3	豊かな自然環境に恵まれ 流水が訪れるまち おうむちょう	みのり豊かな大地と流水が運ぶ新鮮な資源の環境で暮らすおうむ町民を描いたものです。「海の恵み」「山の恵み」「人の恵み」3つの恵みを基盤にしたおうむ町の思いをこめたキャッチフレーズ。	
4	災害に負けることのない強いまち ～ オホーツク おうむ町 ～	子どもから一人暮らしの高齢者まで、安心・安全に住み続けられる明るく元気な町づくりを目指す。	恵まれた自然環境を壊すことなく、ひとりひとりが助け合い、おうむ町民の全員が安心して元気に生活していける町をつくり上げる。
5	「人」×「仕事」×「豊かさ」＝明るい未来 これが雄武の法則	人口減少を食いとめなければいけない。そのためには、雇用を創出し、豊かな自然を活かし町民が暮らしやすい雄武町を創る。	町民の笑顔があふれる雄武町 ・多くの人で賑やかな町 ・スポーツや学習施設が充実した町 ・災害に強い町 ・高齢者にやさしい町
6	自然とともに光り輝くまち おうむ	雄武町のシンボルである日の出が輝いていることをイメージしています。	スポーツセンターの老朽化など、他の市町村と比べるとスポーツ施設が少ないような気がします。ゲートボール場やパークゴルフ場は充実しているが、野球やサッカーなど若年者向けのスポーツ教室や興部町のようなマラソン大会などを開催し、老若男女がスポーツで活気溢れるような町にしたい。
7	自然を活かし、未来へ繋げる雄武町	雄武町の自然を活かし、多くの人に雄武町の良さを知ってもらう。	防災に強く、近隣市町村よりも一段と力の入れた、安心した町としていきたい。
8	「確かな地域力の向上」 新たな魅力の創造・発信するまち・雄武	海・山の自然の恵みをはじめ、温泉施設等の地域資源を活かし、産業の担い手を確保し少子化対策に力をそそぐ。	
9	人に優しく・山海に優しく	継続的な社会を維持していく為、人的資源に優しく(福祉・介護)・易しい(定住・雇用)町づくり。そして、町の生活を支える山海の資源・環境を大切にする。	劇的な発展ではなく、現状を維持すること。減少する人的資源によって継続可能なサービスも減少する、その中で取捨選択を続け、今を維持することを大切にしたい町。
10	日の出に輝く美しい郷土 誇り高くたくましく ともに生きよう 雄武町	海があり、山があり自然の恵み豊かなわが町。たとえどんなに人口が少なくなっても郷土「雄武」に誇りを持って生きていきたいと思います。	

第6期雄武町総合計画「将来像」提案シート まとめ

No.	将来像	込められた思い・考え	10年後の雄武町をどのような町にしたいか
11	海と山の恵みのもとに豊かにいきる雄武町	豊かで恵まれた地域資源である「海の恵み」「山の恵み」の価値の向上により、地域資源を直接的に扱う第一次産業を中心とした産業振興によって、都会に比べ、豊かに明るく暮らせる雄武であってほしい。	現在は、自然資源は当たり前のものとして過少な価値しか与えられていないと考えますが、自然資源に正当な価値がつけられれば第一次産業の所得向上が図られ、それに伴い第二次産業や第三次産業が振興されると思います。所得が向上し生活が豊かになることを外部に発信することで人口減少に歯止めをかけ、恒久的に豊かに暮らすことの出来る町であってほしいと思います。
12	【将来像】 確かな未来へ。生産・創造・躍動のまち「雄武」 【計画の名称】 確かな未来へ。生産・創造・躍動プラン	地域産業の生産力を高め、雇用を創出し、結婚・出産で新たな命を創造し、赤ちゃんからお年寄りまで、町民みんなが躍動し、安心して住み続けられるまちづくりを進め、人口減少危機を乗り越えて、確かな未来へつながる10年としたい。	・第1次産業を基軸とした地域産業の生産力が安定・向上している。 ・生産者や事業所の収益向上が産業の高次化に向けられ、新たな雇用が生まれている。 ・地域産業の発展に向け、研究開発やマーケティング、ブランディング等を担う組織が生まれ、高学歴も活かせる雇用が創出されている。 ・外国人技能実習生に頼らざるを得ない加工業界を、日本人の若者が担っている。 ・オホーツク海と丘陵地帯、豊かな自然と農山漁村が織りなす風景を磨き上げ、これが雄武町独特の観光資源となって多くの人々が訪れている。 ・出産から子育て、小・中・高校に係る教育の負担がトータルで軽減され、出生率が回復している。 ・雄武高校が存続し、少人数の特性を活かして、地元就職や公務員、進学(センター試験対策)等にも対応できる、生徒個々に応じた学習プログラムが確立している。 ・災害リスクが少ない、広大な町有面積などの立地条件がまちづくりに活かされている。 ・複数の医師が定着し、地域医療と介護サービスが充実し、高齢層の転出が減っている。
13	オムイノベーション ～次世代につなぐまちづくり～	雄武町の歴史、文化、自然など、独自の魅力や特色を生かし、新しい発想や技術を創造することにより、人口減少問題を始めた社会問題を解決し、雄武町を次世代へとつなげていくまちづくりを目指す。 ※オムイノベーションとは、「雄武＝オムイ」と「イノベーション＝技術革新」を掛け合わせた造語	
14	調和のかぜが吹くまち	雄武町に来て一番最初に感じたことが、心地いい風が吹いてるなと思った。それに、海と山の調和、人々の調和をイメージした。	

第6期雄武町総合計画「将来像」提案シート まとめ

No.	将来像	込められた思い・考え	10年後の雄武町をどのような町にしたいか
15	「海・山・人」がひびきあい 笑顔とやさしさあふれるまち おうむ	町の基幹産業である農業と漁業、そこに携わる人たちの活 気であふれ、子供から高齢者までが夢と生きがいを持てる まちづくりを行うことで、笑顔とやさしさがあふれるまちにし たい。	町民みんなが「雄武町に住んでいて良かった」と心から思えるま ちにしたい。
16	「雄武町っていいね」 みんながそう思えるまち おうむ	ちいさな町だからこそできる、きめ細やかなまちづくりを展 開することで、町民みんなが雄武町を自慢できるまちにし たい。	
17	大きな希望を持ち 美しい町目指し 向かい続ける		
18	皆が楽しめるまち 雄武	雄武町の豊かな自然を活かし、アウトドアを楽しめる基盤と 医療面や安全面を強化することで、町民が不安なく暮らせる 町をつくる。	
19	『郷土愛に満ちた若者が躍動するまち・雄武』	基本理念である「郷土愛」溢れる若者が定住する活気に満 ちたまち	若者が定住し安心して時代を担う子育てが出来る、希望と活 気が満ち溢れる「オホーツクの拠点」
20	郷土愛にみちた・郷土愛あふれるまち	生まれ育った雄武で暮らしたい、帰郷したい、町外からも 雄武に移住したいというまちづくり	現状の人口を推移していればいいのですが、人口が減少し ても、元気でいきいきとしたまちであること。
21	元気・ハツラツ・雄武町	元気があれば何でもできる	小さくても、なんか活気のあるまち。
22	きっと・もっと・ずっと 安心して暮らし続けられるまち・雄武	人口減少のためには、転出者の抑制や子育て環境の充実 がキーワードとなる。そのためには、いつまでも雄武で暮ら していいたいと思ってもらえることが重要と考えます。	高望みはしていません。現在の雄武町がこれ以上衰退せ ず、多少の賑わいがある町にしたい。
23	若者(新卒者や移住者)の定住 及び、町外出身者の結婚や出産	まず、若い人が増えて、住み易く無いと町が活性化しない	・若者が安心して定住・労働が出来る環境。 ・お年寄りが安心してセカンドライフを送れる環境。 ・交通の利便性能向上(高規格道路の延伸、道路線形の改 良、公共交通の充実化)。 ・災害対策強化(防災施設(例:備蓄庫や非常用電源、避難施 設の充実化や、道路、河川、海岸、治山等の強靱化))
24	雇用創出、企業誘致	若い人を定住しやすい様、雇用を増やさなくてはならな い。現在町内にある企業だけでは限界があるので、誘致活 動もした方が良い	
25	交通の利便性(札幌・旭川・北見、各空港や駅までの 移動性の向上とそれらのアピール)	都市への移動に支障が多いと若者は定住しない。高規格 道路の延伸や公共交通をもっと向上したほうが良い。	
26	豊かな自然を生かした産業と活力溢れる町	豊かな自然を生かした産業により雇用や所得の向上をし、 活力ある町になれるように	雇用や所得の向上に伴い活力がある町
27	人と人が繋がるまち	自然に富む雄武町において、2次産業(加工業)・3次産業 (サービス業)の発展をさらに進め、雄武町のPR、雇用の 創出を図る。	人口減少が進むなか、雄武町のみでこの問題を解決するの は困難と考える。 雄武町の資源を観光や食品に活用し、集客やPRに繋げ、 雇用の創出を図る。

第6期雄武町総合計画「将来像」提案シート まとめ

No.	将 来 像	込められた思い・考え	10年後の雄武町をどのような町にしたいか
28	オホーツクの自然の中でのびやかに過ごせるまち	広大な牧草地やオホーツク海などの魅力的な自然がいっぱいある中で、それらの自然を身近に感じ、ともに共存していくまちにしたい	神門の滝や宮の森公園以外にも自然の中の散策コースを増やしたり、マリンスポーツや海で出来るイベントを増やして、自然を満喫できるまちにしたい。
29	「新たな地域力へ」 人が輝き続けるまち「雄武」	雄武町の魅力である海と山の産物の価値をさらに向上させ、それに従事する雇用が生まれ、都会や他の町では感じることができず、町民ひとりひとりが輝きをもち、ふれあいを大切にして、明るいまちであってほしい。	・雄武にしかない貴重な一次産業を活かし、二次産業や三次産業に発展している。 ・子どもから高齢者までがふれあい、脈わいをみせている。 ・海の恵みと山の恵みなどを活かした観光プランができあがり、多くの観光客が訪れている。 ・スポーツが盛んで、子どもから高齢者までが健康志向や体力向上に努め、元気に満ちあふれている。
30	海あり・山あり・優しさあり・雄武町	産業と人とのぬくもりなどを表現したい。	
31	(お)いしい (う)つくしい (む)つまじい町雄武町	同上	
32	オホーツクのパレット 雄武町	海の青、牧草の緑、カモメの白、太陽の赤、町民の笑顔の金。いろんな良いところがぎゅっと集まり、雄武ならではの豊かさを表現。	
33	おいしい！たのしい！大好き！雄武町	豊かな産業と活気あふれる郷土愛を表現したい。	
34	海に輝く真紅の日の出 雄武町	海と人の温かさを表現したい。	
35	海の恵みとみんなの笑顔あふれる町 おうむ	産業と人の豊かさを表現したい。	
36	豊かな自然、豊かな心 つくりだす豊かな未来雄武町	今の雄武町の自然の豊かさ、産業、人々の心の温かさをそのまま未来につないでいきたい。	・人口減少が心配される中、老若男女そして障がい者も健常者も10年といわず、この先ずっと、支え合い、笑い合い、一次産業にも活気が溢れ、町民が生きがいを持って生活している町であってほしい。 ・雄武町民全体が明るく豊かになるような町 ・自由に語り合うことができ、皆が笑顔になっているような町になって欲しい。また、自由に語り合い、笑顔が多い、唯一無二な町になって欲しい。 ・雄武町に住んでよかったと実感できる町にしたい。 ・子どもからお年寄りまで、すべての町民が安心して、希望を持って生活できる町。 ・自然の豊かさと人の温かさがあふれる活気のある町にしたい。 ・雄武町に来たいと思う若い人がさらに増えるような魅力ある町。
37	変革と創造を経て躍動する町・雄武	変革と創造に挑んだ10年を経て、この先10年間は躍動しなければならない。	
38	賑わいと笑顔にあふれ活気ある町・雄武町	人口減少が心配される中、老若男女が将来に渡し、支え合い、笑い合い、一次産業も活気があり、すべての町民が生きがいを持って生活し続けていてほしい。	
39	きらめけ我が町！ ～人と自然で築く、活力みなぎるまち おうむ～	町民と町を創りあげ、笑顔の溢れる町になってほしい。	
40	夢語る町	しっかり夢を語ることができる町。オホーツク海のように広い心でどんな思いも受け止められるように	

第6期雄武町総合計画「将来像」提案シート まとめ

No.	将 来 像	込められた思い・考え	10年後の雄武町をどのような町にしたいか
41	支え合い、助け合い、暮らしの幸せを実感できる町。	町民一人ひとりがそれぞれの立場でそれぞれの力を活かして、支えたり、支えられたりしながら生活し、他者・周囲の人に感謝の気持ちや尊厳を持ちながら過ごすしてほしい。	子育てから高齢者・障がい者の生活支援・産業振興等の施策は、町民が雄武町で生活していく上で必要な施策であり、支える側にも支えられる側にもなることを認識して、一人ひとりが役割意識や町づくりへ参画している意識を持って生活する。一生懸命働くことや勉強したり、他者の支援を行うことは人が生きていく上で必要なことをそれぞれの立場で担っていることを認識して、自分や家族や周囲の人が幸せに過ごすことを喜べる町にする。
42	雄武町の自然と産業を活かした、町の魅力を発信し、人事交流が盛んな町。	雄武町の四季折々の自然風土を楽しみ、活かした生活を町民自身が町外の方々へ広める役割を持って交流する町にする。(釣り・山菜取り・野菜作り・自然散策等を体験する。)	
43	人づくりが町づくりの基本として、人材育成が制度が整った町。	学校教育、社会教育、家庭教育・職場等における人材育成等、生涯、学びと発見を喜び町づくりに活躍できる人材を継続的に輩出できる体制を整える。	
44	～さらなる変革と創造を目指して～		
45	満天にきらり輝くまち・雄武	人口が減少していく中でも、町民一人ひとりが郷土愛に燃え、幸せを感じながら笑顔で輝きを持ち続けられる町にしたい。	農林水産業や観光の振興を通じて、雇用の維持・拡大及び交流人口の拡大、さらには、移住・定住を促進することにより、確かな地域力の向上とともに、人口の減少が抑制され、10年後も基幹産業の持続的な発展により、地域の活性化が図られている。 人口減少を抑制する具体的な施策としては、農業は、家族経営の規模拡大や協業法人化の促進、新規就農者の誘致、さらには、コントラクターやTMRなどの経営支援システムの構築による労働力負担の軽減により、後継者への継承、従業員等の雇用の拡大と移住促進を図っていく。水産業については、つくり育てる漁業や資源管理型漁業を継続して推進するとともに、ホタテの増産に向けた取組みを実施し、水産加工業者の原料確保による就業員の雇用の維持・拡大を図っていく。また、観光については、観光協会や異業種間の連携を強化しながら、地域資源を活かした滞在型・体験型メニューを開発し、交流人口の拡大とともに、移住へとつなげていく。
※	『確かな地域力』を活かし、チャレンジするまち・雄武	※策定支援業務委託先「ぎょうせい」の提案	